



2017年（平成29年）6月5日

相鉄グループ100周年記念 都心直通用 新型車両「20000系」を導入 ベビーカーや車椅子にも優しい車両

相模鉄道株式会社

相鉄グループの相模鉄道株（本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、相鉄グループが創立100周年を迎える2017年（平成29年）12月に、新型車両「20000系」を導入します。新型車両としては11000系以来9年ぶりとなります。

この車両は、2022年度（平成34年度）下期に開業予定の相鉄・東急直通線※の車両として使用するもので、「デザインブランドアッププロジェクト」のコンセプトを反映した新型車両としては初めてのものです。

新型車両「20000系」は、昨年登場しお客様からもご好評をいただいている9000系リニューアル車両に続き、新たな相鉄線のイメージカラーである濃紺色（YOKOHAMA NAVYBLUE）の外装や落ち着いたグレー色を基調にした内装、時間帯で色調が変化する調色調光式のLED照明を採用しています。今後、相鉄線沿線から東京都心に入り入れることから、相鉄を象徴する車両として、これまでの通勤型車両には見られない斬新なデザインやアイデアを随所に取り入れています。先頭形状は、通勤型車両のイメージを打ち破る立体的でインパクトのあるデザインを採用。車内は、空調設備を工夫して実現した高い天井やガラス製の荷棚・仕切り・貫通扉の採用により、開放感のある室内としました。また、全ての車両にベビーカー・車椅子用のフリースペースを設置し、優先席の一部には立ち座りが容易になる「ユニバーサルデザインシート」を導入している他、相鉄線では初となる「ナノイー」*搭載の空気清浄機、駅に長時間停車する際にお客様がドアの開閉を行える「個別ドアスイッチ」を新たに導入するなど、多様なニーズにお応えできる仕様としています。

概要は、別紙のとおりです。



ヘッドライトが特徴的な20000系（イメージ）



立ち座りが容易な「ユニバーサルデザインシート」（イメージ）

「20000系」の概要

1. 営業運転開始

2017年(平成29年)12月(予定)

2. 導入車両数

1編成(10両) (7000系車両の代替)

※2022年度(平成34年度)下期(予定)の東急直通線の開業時までに順次導入予定。

※相鉄・JR直通線用の車両は、現在検討を進めています。

3. 開発コンセプト

安全×安心×エレガント ～目先のトレンドに左右されない「醸成するデザイン」～

4. 主な特徴 (◎ 相鉄線初)

①快適性の向上

◎「ユニバーサルデザインシート」を一部の優先席に導入

立ち座りを容易にするため座席の高さを上げ、座り心地を損ねない範囲で座面を小さくしたシート。

座席下部に大型の荷物が収納でき、荷棚が使いにくいお客様でも安全にご利用いただけます。

◎ベビーカー、車椅子用のフリースペースを全車両に設置

◎「ナノイー」*搭載の空気清浄機を導入

◎「個別ドアスイッチ」を全てのドアに導入

空調効果を高めるために始発駅等でお客様によりドアを開閉することができます。

◎座席端部の仕切り板の大型化

座席端部の仕切り板に強化ガラスを採用し、荷棚まで届く形状にすることでドア付近にお立ちのお客様の荷物等による着席しているお客様への干渉を緩和します。

・日差しを遮る「ブラインド」を復活

・相鉄線の特徴でもある「車内の鏡」を復活

・時間帯で変化する調色調光式のLED照明を採用

・2016年度GOOD DESIGN賞を受賞した「つり革」を採用

・ロングシート座席は座り心地を改良し、ランダムパターンを施した汚れが目立たない生地を採用

②車内への情報提供の強化

◎ドア上や通路の天井に大画面案内表示器(21.5インチ)を設置

◎見やすさを向上のため通路の天井に広告画面を設置

・全車両でWi-Fiを提供 ※Wi-Fiをご利用になるには、通信事業者との契約が必要です。

③環境への配慮

◎新型素子(SiC素子)を採用したVVVFインバータ制御装置と高効率電動機の併用や、室内灯・各種灯火類のLED化により消費電力を低減

・密閉型主電動機や防音車輪の採用により騒音を低減

④安全・安心の更なる向上

・車内の非常通報装置を増設

◎急曲線等での安全性を向上させた專業メーカー製台車

◎車両情報を司る装置にイーサネット方式を採用し、安全性やメンテナンス性を向上

5. 車両製造会社

(株)日立製作所

6. デザイン設計

(株)PRODUCT DESIGN CENTER

*「ナノイー」は、パナソニック株式会社の商標登録です。



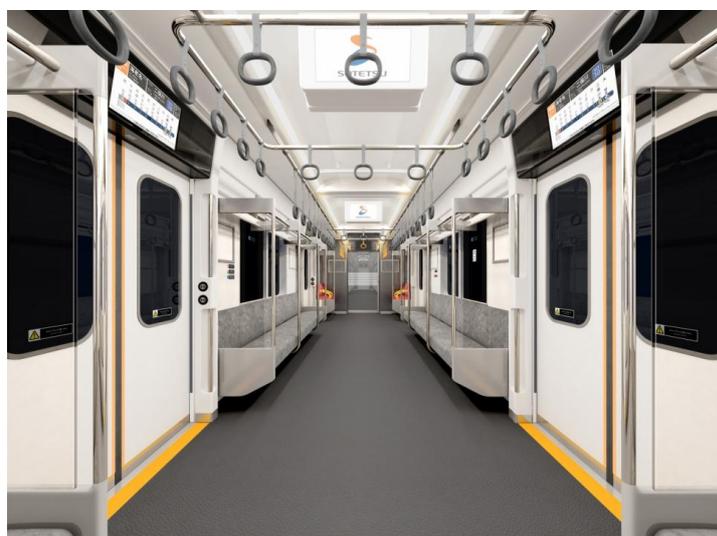
20000系前面 (イメージ)



20000系側面 (イメージ)



ガラスを多用し開放感のある室内 (昼間イメージ)



夜間には暖色系の照明に変更 (夜間イメージ)

■水野学氏プロフィール

クリエイティブディレクター/クリエイティブコンサルタント/good design company 代表/
慶應義塾大学特別招聘准教授

1972年 東京生まれ。

1996年 多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。

1998年 good design company 設立。ブランドづくりの根本からロゴ、商品企画、
パッケージ、インテリアデザイン、コンサルティングまで、トータルにディレクションを行う。



■洪恒夫氏プロフィール

1960年 横浜生まれ。

1985年に丹青社入社以来、ミュージアム、テーマパーク、博覧会、展覧会等幅広い分野の施設デザイン、プロデュースを手がける。2002年より東京大学総合研究博物館教員を兼務(現職=客員教授)。日本空間デザイン賞大賞、サインデザイン賞優秀賞、日本商空間デザイン賞金賞、グッドデザイン賞など受賞多数。



■鈴木啓太氏プロフィール

プロダクトデザイナー/PRODUCT DESIGN CENTER 代表

1982年愛知県生まれ。多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒。

2012年デザインオフィス「PRODUCT DESIGN CENTER」ブランド「THE」設立。プロダクトデザインを中心に、ブランニングからエンジニアリングまでを統合的に行い、家電、モビリティ、家具、日用品、アートに至るまで、国内外で様々なプロジェクトを手掛けている。

2015年『サンティエヌヌ国際デザインビエンナーレ (フランス)』招待作家。

2016年「HUBLOT DESIGN PRIZE 2016 (スイス)」ファイナリスト。

2016年よりグッドデザイン賞審査委員。

